

第24回 河内長野市地域公共交通会議録

会議名称	第24回河内長野市地域公共交通会議
開催日時	平成26年10月2日（木） 午後3時～
開催場所	河内長野市役所 802会議室
公開・非公開の別 （非公開とした 場合はその理由）	公開
傍聴者	0人
出席委員	別紙出席者名簿のとおり
会議次第	<p>(1)「河内長野市バスマップ」に関するアンケート結果等について</p> <p>(2)「日野・滝畑コミュニティバス」の運行ルートの変更等について</p> <p>(3)「第3期河内長野市地域公共交通網形成計画」(案)について</p> <p>(4) その他</p>
会議内容	別紙会議内容のとおり

第24回 河内長野市地域公共交通会議内容

発言者	会議内容（要旨）
事務局 （鈴木主査）	<p>只今から、平成26年度 第24回河内長野市地域公共交通会議を開会させていただきます。本日の出欠状況ですが、湯川委員、濱本委員については欠席されると伺っております。また、長谷委員の代理といたしまして野村様に、浅井委員の代理といたしまして平瓦（ひらがわら）様ご出席いただいております。では、この後の議事進行につきましては、会長をお願いいたします。</p>
向井会長	<p>日中はまだ暑い中、お時間を整え、ご出席をいただきありがとうございます。早速、会議を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。はじめに、規則第8条第1項の規定により委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。また、この会議は、規則第8条第4項の規定に基づき公開とさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
向井会長	<p>【議題1】 それでは、まず始めに、議題（1）「河内長野市バスマップ」に関するアンケート結果等について、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 （田中）	<p>（事務局より、「河内長野市バスマップ」に関するアンケート結果等について、資料1の説明）</p>
向井会長	<p>ありがとうございました。今回は市政モニターさん22名のうち、バスマップを使って外出したことがある方が2名で、実際はやはり車社会ということで利用される方が少ないですが、バスマップについてはいろんな評価があるということで、ご意見等はございませんでしょうか。</p>
堀委員	<p>先日、第一交通さんとお話する機会があったんですが、バスが通っていないところやバスの便数が少ない地域でのタクシーの利用状況の情報があっても良いのかなと思います。バス路線が完備されていて頻繁に運行しているようなところは十分ですが、そこから外れる地域だったり、ポイントになる場所があったりするので、それに対するタクシー料金の算定を参考にできれば良いと思います。</p>
池谷委員	<p>ありがたい話ですが、認可の問題もありますので、料金に関しては本社の</p>

	営業も入れてまたお話をさせていただきます。
向井会長	バスマップは今年度を作成する予定ですが、委員のみなさまにはいつごろご提示できますか。
事務局 (水上係長)	来年1月の開催時に、新しい形でご提示したいと思います。
向井会長	前は5枚ものでしたが、今回は1枚ものをベースにして、委員のみなさまからいただいたアイデアを加味するのですね。
事務局 (水上係長)	委員のみなさまのご意見を反映させて、来年にご提示できたらと思っております。
日野副会長	今の議論で、資料1の7ページで、次はA2の1枚ものとありますが、6ページの間5-1の「バスマップを活用して外出したことがあるか」とあり、そもそも想定していなかったことを聞いているんですが、なぜそんなことを聞いたのかなと。前の議論ではA2のほうもありましたが、観光目的なら携帯用のほうが良いよねという話もありましたよね。あと、前は配っていますが、次にまた配るとすると、形は違うけれど、家庭用を続けて配るとするのはどうなのかなと。前回のものと使い分けてもらえば良いですけど、無駄になったりしないかなと。そこで、携帯用というのとも良いのかなと思います。それと関連して、このアンケートは市政モニターさんなので、回答の割合というのはあまり大きな意味を持たないので、むしろ評価のところで「不満」とお答えいただいている方々がどういうところに不満を持たれたのか、その他意見とリンクしていないので、関連付けて説明いただくとわかりやすいし、次のマップ作成に活かせるのではないかと思います。なにか事務局で考えがあればお聞きしたいです。
事務局 (水上係長)	昨年マップについては、千代田駅、河内長野駅、三日市町駅、美加の台駅の4枚と時刻表の5枚をクリアファイルに入れて、冷蔵庫に自分の最寄の駅の方と鉄道の方を貼って見てもらうイメージで作成させていただいたのですが、今回アンケートの結果を踏まえて、周辺施設の情報量、掲載量を増やしてほしいという意見が多かったと思いますので、これについてはもう一度、どのような施設を盛り込んだら良いのか考えながら、できるだけ増やしていきたいと思います。昨年は、全戸配布でしたが、今年度はA2サイズで、折りたたんで持ち運びできるような形で、全戸配布ではなく、駅や観光案内所などで自由に取っていただけるように配布してはどう

	かなと考えております。
日野副会長	前回のマップはファイルタイプなので、私は壁などに貼るというよりは立てかけておいて、必要なときに取って使うのかなというイメージでした。配布するときには、使い方を記載したものを一緒に出せば良いのかなと思います。持ち運びはやはり A2 版を折って使うのは大変だと思うので、家庭の中で使っていて持ち運びするのか、観光施設限定型にする場合はもう少し小さくするとか、そのあたりは議論がいると思います。
事務局 (水上係長)	他の事例も調べながら、次回の会議では目的も含めてご提示できるようにしたいと思います。
日野副会長	南海バスさんは他の事例もたくさん持っておられますか。
植田委員	持ち運びという話になると、最近、南海電鉄で「高野散歩」というものを作られて、女性にも持ち運びやすいサイズです。「ことりっぴ」という観光ガイドブックもあるように、そういった形・サイズの流れになっていると聞きますので、サイズも重要なかなと思います。
松倉委員	アンケートを見させていただいて、河内長野の住民の方が主な利用者で、その方々が買い物や遊びに行くときに見られるようなマップを作られているということなのですが、その中で、あれもこれも入れていくと情報量が多くなって、何のマップかわからなくなってしまうので、生活で使うようなマップと、観光で来られる方は観光案内所に行って地図をもらって情報を得て行かれるので、それを兼ねようと思うと、QR コードをスマートフォンでかざすと、観光情報が出てくるようにしてスペースを省略してマップを作るのも一つです。それとは全く別に、観光用として作ったり、使う人がどう使うかということイメージしながら作られたほうが利用していただく機会が増えるのかなと思います。
向井会長	具体的な提案など、他にありませんでしょうか。
川幡委員	マップそのものをスマートフォンで見れるなど、ネット配信の考えはないのですか。
事務局 (水上係長)	前回配布したマップについては、ホームページからも見れるようにしております。

川幡委員	そのあたりをもう少し広報すれば、利便性などはある程度解消できると思います。持ち運びという点では便利かと思います。
曾和委員	今はスマートフォンの時代ですので、何でもスマートフォンで見ることが早いですよね。
事務局 (水上係長)	スマートフォンへの対応も十分に考えながら作成していきたいと思いますので、よろしくお願いします。
向井会長	【議題2】 それでは、議題(2)「日野・滝畑コミュニティバス」の運行ルートの変更等について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (田中)	(事務局より、「日野・滝畑コミュニティバス」の運行ルートの変更等について、資料2の説明)
向井会長	ご紹介がありましたように、11月29日に奥河内くろまろの郷がオープンしますが、そこにはJAの直売所もできるということで、非常に多くの方がお見えになることを期待しているのですが、一方で、この道は通り抜けできるのですが、片道一車線ですので追い越し車線がなく、渋滞すると全然動かない状況が想定されます。南海バスさんは、もし手前で渋滞して並びだしたら身動き取れないですよね。そんな場合は、どうなるのでしょうか。
南海バス (大木氏)	バスだけ優先して通してもらえるレーンがあれば別ですが、渋滞につかまってしまうとどうしようもないです。
堀委員	以前、きらく市で直行バスを運行したときも渋滞してて、反対側の車線を優先して通しておられたと思うのですが、それが日常の状態のできるのかどうかはわかりませんが、イベントのときはそのように市で対応されてましたよね。
向井会長	以前はその路線だけでしたが、今回は通過するようになったので、手前で止めたりできるんじゃないかと、そのあたりは警察からの指導もあると思います。
川幡委員	これができる前に、高向駐在所の細い道の東側に通称で宮ノ下農道という道路が開通してますので、それをうまく使うのも一つの案かと思います。

向井会長	停留所があるということは、必ず行かないといけませんよね。手前のところで引き返すということはできないのですね。
南海バス (坂口氏)	路線バスについては、自然災害で通れないなどの場合は、緊急の対応で認められている部分がありますが、基本的には決められた箇所を通らなければいけないことになっています。混雑する日などは事前に今からでもシュミレーションできると思います。渋滞といっても反対車線は空いていると思いますので、先程のきらく市での対応のようにバスを通していただくとありがたいです。まだ時間もありますので、そのあたりをシュミレーションしていただきたいです。
日野副会長	直接関係ないかもしれませんが、できるだけ車ではなくバスを利用してほしいということで、バス利用者へのサービスなどは検討されていないのですか。例えば、バスを利用すると割引券をもらえとか、農作物など重いものが多いので、バスで来てもらおうと思うとデリバリーなどもありかもしれません。そこまでは、無理かもしれませんが、なにかお得感を出すものは検討されていないのでしょうか。
扇田委員	今のところはまだそこまで考えてはいないのですが、サービスをしたときには、優先部分をだれが負担するかということも考えなくてはなりません。
日野副会長	バスの上限運賃の件もそうですが、その分だけ来てもらえるということで対応するのがベストだと思います。先程、会長からお話があったように、車でたくさん来ると問題が起こるので、できるだけ公共交通を使ってほしいということです。施設側としても、混乱していろんな問題が起こるよりは良いと思います。具体的にいくら損して、だれが負担するのかという議論をするとややこしいと思いますが、そのような話の中でなにか検討していただけたら良いのではないかと思います。
扇田委員	平日より土日祝日のほうが混むと思いますが、平日にどの程度お客さんが来られるか見通せないで、混雑が予想される日は特に公共交通を優先して利用していただけるようなことなど、一度検討したいと思います。
日野副会長	余談ですが、淡路島にある公園で身体障がい者用の駐車スペースが全部埋まってしまったという問題がありましたが、くろまろの郷にも身体障がい者用の駐車スペースはありますよね。

扇田委員	5台あります。
日野副会長	少なくとも、そういった身体障がい者用の駐車スペースはちゃんと確保できるような仕組みがいます。
堀委員	このバス路線は本数がすごく少ないですよ。基本的に便利じゃないから乗らないのであって、30分に1本でもあれば便利だし乗ろうかということになります。そのあたりは、難しい問題なので今すぐにといいわけにはいきませんが。
向井会長	市内のシャトルバスというのも議論していかないといけません。現状では、河内長野駅前からしかくろまろの郷には行かないんですよ。そうすると、千代田や三日市、大矢船方面など市内広くの方々は、直接行くルートがなくて、一旦河内長野駅に出ないとだめで、そうするとみんな車になりますよね。ご高齢になり、運転をされない方でも、新鮮なものが売っているのでも買いに行こうとなるには、なにか考えないといけないということで、まだそこまでいっていないのが残念です。とりあえずこのような形で進めていますが、この事業につきましては、今年度の第1回目の交通会議の際に承認いただきました地域内フィーダー系統確保維持計画ということで、国から補助をいただいている路線ですので、変更内容などは事務局一任で整理をさせていただくということでよろしいでしょうか。またいろいろ課題がいっぱい出てくる可能性がありますので、南海バスさんともご相談して進めていくということでよろしいでしょうか。
向井会長	【議題3】 それでは、議題（3）「第3期河内長野市地域公共交通網形成計画」（案）について、事務局から説明をお願いします。
事務局 （鈴木主査）	（事務局より、「第3期河内長野市地域公共交通網形成計画」（案）について、資料3の説明）
向井会長	前回、委員のみなさまより貴重なご意見をいただきまして、庁内でも再度整理をいたしまして、事務局から紹介がありましたように一部修正を加えてまとめさせていただきました。パブリックコメントにて市民のみなさまからご意見を伺う機会を設けますが、この交通会議でしっかりご議論したものを出していきたいと思っておりますので、みなさまのご意見をいただければと思います。

<p>日野副会長</p>	<p>23ページの（g）の部分が追加されたということで、これについて異論は全くないですが、今説明いただいた趣旨の文言になっていないというのがちょっと気になって、ニーズに即した改善策というのは当たり前の項目ですよね。それをあえて入れるのは、今の説明では、よりまちづくりの観点から見たときに、新たなニーズに即したという意味だとか、それに合わせて公共交通網の形成につながるんだというご説明をいただいたんですが、ここに書いている文言にはそういうのがないので、あえてこの（g）の項目を一般的に当たり前のニーズに即した改善策として入れているのは、今の説明のようなことがあるからだということを書いておいたほうが良いですね。よりまちづくりの観点をとということから、更なるニーズを勘案して、それに合ったものを考えていきましょうということを示したほうが良いと思います。文言等は事務局にお任せします。</p>
<p>向井会長</p>	<p>全般を通して、伊勢委員はどうでしょうか。</p>
<p>伊勢委員</p>	<p>特にこれについてはないんですけど、聞いたかったのが農の拠点の話なんですけれども、施設の中を見てると、観光的な要素が特に強いような気がして、路線バスを使って観光するというパターンもあるかと思うんですけど、こういうのができると、どちらかという貸切バスでたくさん乗ってきて、いろんな場所に行くということを考えると、一般の路線バスの利用者というのが実は少ないんじゃないかと思っています。最近よく言われて、国交省でも出てきました「小さな拠点」という形でですね、道の駅を含めてですが、こういうところに診療所や郵便局など一般的に日常的に使うものを入れることで、買い物に行き、また不便なバスを乗り継いで病院に行くというのは生活スタイルとして成り立たない中で、それを回避するためにも、バスでここに行けばある程度のものは揃うと。スーパーもあって買い物して帰れるようにすると、駅から遠い地域の利用者の生活支援にも、観光振興にも貢献すると思います。支援事業というのも立ち上がりつつあって、地方創生も含めて、今後の方向性としてそういうことも考えておられるのか、お伺いしたいと思います。</p>
<p>扇田委員</p>	<p>今おっしゃった「小さな拠点」として、この場所に診療所や郵便局などの日常的に必要な施設も一緒に整備すると。それは、地元の住民にとっての生活支援にもなるし、一方で、観光の視点も入っているからという主旨でしょうか。</p>
<p>伊勢委員</p>	<p>観光だけの観点だけでいくと、路線バスの利用がどれくらいあるのかなという心配があって、それなら地域の人たちも来れたほうが良いと。常に農</p>

	<p>産物の直売所ばかり利用するわけではないと思いますが、かといって毎回河内長野駅まで買い物してもらうこともできるのかなというのがあって、拠点がいくつかあっても良いのかなと思ったものですから。</p>
<p>扇田委員</p>	<p>まだオープン前なので、ご指摘いただいたところまでは考えてないんですけども、この事業自体も防災の観点など、全国的な流れも踏まえながら設計してやってきております。今後、買い物支援などにも広げられたらという思いは持っていますので、ご指摘いただいた点も研究していきます。</p>
<p>向井会長</p>	<p>野村委員は、近畿圏の他市の状況をいろいろご覧になってどうですか。</p>
<p>長谷委員代理 (野村氏)</p>	<p>実は、形成計画を作り始めてるところは実際少ないんですね。法律自体も改正の公布はされてるんですけど、施行自体がまだで、政省令の施行も当然まだです。現在、パブリックコメント中ですので、事務局の方には、細かいことが決まっていなくて動いていただいているので申し訳ないという気持ちもあります。第3期計画については、基本的には第2期のものを踏襲してると思うんですけど、第3期計画でなにが変わったかということ、達成状況というのを盛り込んでいただきたいというのが今回の改正の趣旨です。まちづくりとの観点もありますが、これを作ったことで、どれだけ公共交通が活性化したかということの、達成状況の目標値を定めていただく必要があります。ただ、今のところ計画の中には、それが盛り込まれていないと思いますので、ぜひ今後そのあたりを詰めていただけたらなと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>野村さんがおっしゃるのは、この計画の中に、現在の乗客や利便性などが向上したという数値目標みたいなものを定めるということですね。</p>
<p>長谷委員代理 (野村氏)</p>	<p>定量的な数値目標を定めていただく必要があるんですが、法律自体まだ施行されていないので、施行されてから詰めていただいたほうが良いのかなと思います。あと、くろまろの郷の話に戻りますが、現在、ここのホームページがオープンしてると思いますが、その中で、駐車場が広いですということをすごくアピールされてるんですけども、バスが通るということが載っていなかったと思いますが、そのあたりを掲載していただくと良いのかなと思っております。</p>
<p>向井会長</p>	<p>野村さんがおっしゃった目標などについては、事務局で考えなければならぬと思いますが、今後どんなイメージで、目標値などを提示していく予定ですか。</p>

事務局 (水上係長)	政省令が出ましたら数値目標を考えた上で、年明けくらいにはご提示させていただけるとお思います。数値目標が必要であるということは教えていただいて、情報はつかんでいますので、また相談させていただいて計画に盛り込んだ上で、交通会議でご提示させていただきます。
日野副会長	数値目標とまちづくりの観点というのは難しいですよ。数値目標となると、従来通りの乗降客数とかばかりになってしまいそうですね。
長谷委員代理 (野村氏)	定量的な目標なので、ただ単に増加したとか減ったとかではなくて、1%増加するなどの数値目標は必要です。そのあたりは過去の流れからすると、どう定めていくのか非常に難しいところもありますし、需要予測も非常に難しいと思うのですが、ただそれを入れなさいとなっているので、ぜひやっていただきたいとお思います。
日野副会長	事業などの目標値などで、最初に設定する数値目標と、それにプラスで、結果的にその事業によってこんな良いことがありますよということをなにかの方法で示すと。よく使われるのが住民アンケートなどですが、どういう指標でどんなやり方かというとのはみなさんのご意見いただいて、検討しないといけないとお思います。
向井会長	平瓦さんは、府の観点からいかがですか。
浅井委員代理 (平瓦氏)	パブリックコメントもされるということで、この計画の概要版というのは作られますか。
事務局 (水上係長)	概要版も作ります。
浅井委員代理 (平瓦氏)	基本的によく言われるのが、交通がどうあるべきかの前に、こういうまちづくりをするために、それを支えるために公共交通でここを整備しますというのが基本的な考えになってくるとお思いますので、その概要版の中では、そういう目指すべきまちづくりがあって、公共交通をこのように整備していきますと。それにあって、今回は第3期目なので、第1期、第2期でこういう課題があったので、この課題に対して第3期ではこういうことをしていきますというのがわかりやすくなっていけば良いかなとお思いました。パブリックコメントをするときに、一般の人はこの資料だけ見るのはしんどいかなとお思いました。概要版でまちづくりの観点というのをしっかり取り入れていただけたらとお思いました。あと、計画から離れて、ま

	たぐろまろの郷の話になりますが、ここの来客者の予想人数などは算出されておられますか。
扇田委員	算出しております。JAの直売所の初年度売り上げ目標が6億円ですね。以降、8億円まで伸ばすということで、来場者も直売所中心で考えて、40万人ほどかと思えます。
浅井委員代理 (平瓦氏)	その中で、来訪される方の交通の分担率とか、そこまでは検討されてないですか。
扇田委員	そこまではできておりません。
向井会長	これは、プロポーザルでアルパックさんが選ばれて、それ以降設計をしてもらっていますが、今おっしゃった交通分担率などが出せてないのなら、コンサルティングにきっちりしてもらったほうが良いですね。委託したアルパックの大きな業務だと思います。 松倉委員は、全般通してなにかございますか。
松倉委員	23ページの(f)のところで、周辺市との連携の話を書いていたのですが、今まさに富田林市さんも河南町さんも千早赤阪村さんも、同じような地域公共交通の委員会を立ち上げられて、課題意識を持って検討されてるんです。千早赤阪村さんも今度2回目をされる予定です。どうしても市民の足というところに重点を置かれると思いますが、採算性とか観光の視点で見た場合は、周辺市との連携というのも一つのメニューに挙がってくると思います。うちの土木事務所で各市さん集まって、交通への考え方を意見交換していただけるような場もつくらせていただいても良いかと思えます。
向井会長	事務局は、大阪狭山市さんとか富田林市さんとの交流は日頃からやっているけれども、松倉委員がおっしゃるように、他の市との具体的な動きはなにかありますか。
事務局 (水上係長)	現在も大阪狭山市さん、富田林市さんとは、年に数回情報交換していますが、この計画が平成27年度から始まっていく中で、計画に書かせていただいているように、市が違うからとかそういう時代ではなくなっていくと思うので、近隣市町村との連携を深めながら、なんらかの新しい路線や、コミバスのルートなど、できるできないは別にして、いろいろ情報交換しながら検討していきたいということでここに盛り込みました。

向井会長	国交省の南河内のグランドデザインでも、30万都市圏というのはいちの市だけでできるわけではないので、観光をはじめ、いろんな施策を考えていく必要があります。そういう意味では、松倉委員に協議ができる場の仕掛けをしていただいたら、お互い情報共有できて職員同士も良いと思います。ぜひそんな機会を富田林土木事務所さんでコーディネートしていただくと非常にありがたいです。
松倉委員	あともう一件、よく公共交通を考えるときにシームレス化という議論がありますが、バスになぜ乗らないのか、たぶんみんなバスは不便だというのが頭の中にあると思うんですね。例えば、先程堀委員がおっしゃったように、タクシー事業者さんとの連携や、南海電鉄さんとの連携など、いろいろシームレス化の考えがあると思うのですが、広域的な連携と、事業間の連携というところも、今後の使いやすさということを考えた場合に必要かと。なかなか難しいと思いますが、一つのメニューになるかなと思います。
日野副会長	今までも、大阪府さんからシームレス化計画の話をいろいろしてもらいましたけど、なかなか実現に向けては動かないですね。
松倉委員	ピタパなどがどこでも使えるようになったりとか、少しずつ動きはあるんですけどね。
向井会長	ありがとうございます。川幡委員はいかがですか。
川幡委員	20ページの楠ヶ丘乗合タクシーは以前からモデルケースで導入されていると思いますが、先程から同様の意見があるように、路線バスが入り込めない細い道の地域で、そこをカバーする意味で実施されておられるということなので、個人的にも非常に良い制度だと思います。当然、予算も伴う話にはなってくるかと思いますが、できればこういった乗合タクシーをより広げていただくと、公共交通機関を利用していただく方が増えると思います。それと、くろまろの郷の件ですが、花の文化園は私もプライベートでマイカーで行ったことがあります。あの川を挟んで向かい側にある駐車場はどこが運営されておられますか。
扇田委員	河内長野市の市立駐車場です。
川幡委員	その駐車台数などのデータベースはあると思いますが、それに当然プラスという形で出てくると思うので、いわゆる最低台数がベースになってる

	<p>と思うので、算出方法の一つとして考えられると思います。既存の施設があって、花の文化園に行ってから、帰りにくろまろの郷に寄ろうかという方も多いのではないかと考えられます。例えば、土日祝日のマイカー利用者は駐車場に停めると思うので、その台数を把握されているのであれば、それにプラスの台数が出てくるのは間違いないので、そのへんを参考にされては良いのではないかと思います。</p>
向井会長	<p>ありがとうございます。川幡委員がおっしゃった楠ヶ丘のような取り組みについて、アメニティなどの新たな地域への仕掛けについて紹介してもらえますか。</p>
事務局 (水上係長)	<p>35ページになりますが、現在取り組んでおります第2期計画から引き続き取り組んでいるところで、基本的には空白・不便地域の中で、地域とともに地域に合った公共交通をつくっていくということで協議を進めています。まず、優先的に入っておりますのが、向野町と桐ヶ丘と自由ヶ丘の3つの不便地域で、勉強会をしませんかと声を掛けさせていただいて、3つの自治会で、今年の5、6、7月に合計3回実施しました。それ以降はまだですが、一応桐ヶ丘さんが次のステップで、桐ヶ丘中央自治会の会長さんが、楠ヶ丘のような乗合タクシーでルートごとの提案など、会長さん自身でいろいろ考えていただいてまして、今後も続けていきたいということで来ていただいています。積極的に取り組んでいただいているところに関して、一緒に考えていってなんらかの交通モードができればということで取り組んでおります。</p>
川幡委員	<p>警察としては、ご承知の通り、ますますこれから高齢化社会が進むことは必然的な状況で、当然歳をとれば、目や耳も遠くなり、反射神経も鈍くなって事故を起こすリスクが上がってくるので、できればそういった不安を感じられる方については、自主返納という形で免許証を返していただきたいので、いろいろ施策を考えています。免許証を返してしまうと普段の足がなくなるのではないかとということになるので、ある意味、公共交通機関の発達というのは、警察の施策とリンクすると思うので、今すぐとはいかないですが、徐々に利便性が上がってくれば、免許証の返納率が高まってくる、イコール交通事故も減ってくるという相乗効果が出てくるのではないかと思います、非常に期待しております。</p>
向井会長	<p>植田委員はいかがですか。</p>
植田委員	<p>(g)のところのニーズに即した改善策の検討で、われわれ事業者として</p>

	<p>もニーズを掴むのは難しいと思ってまして、市のほうでもいろいろご意見あるでしょうし、我々企業にもいろいろお客様の声が入ってきますが、最近そのニーズに変化が多くて、例えばこの3年間で今決めたことがそのまま全部実現するかどうかはわからなくて、また環境の変化などありましたら、お伝えさせていただいて、そういったところも検討していただけるという形式でよろしいでしょうか。</p>
<p>事務局 (水上係長)</p>	<p>(g)の項目につきましては、本文中に書かせていただいておりますように、現在運行している路線バス、コミバス等ということで、我々のくすまも含めたコミバスだけでなく、南海バスさんの路線バスも含めて、少しでも利用者を増やす方策ができないかということで、一緒に協議しながら平成27年からの3カ年でいろんなことを考えていきたいと思えます。</p>
<p>植田委員</p>	<p>こういう形で3カ年を計画すると、だいたい今考えてラインアップを挙げていくんですが、おそらく1年後に状況も変わってるかもしれませんので、そういった柔軟性も必要かと思っております、そういう取り扱いをしていただけたらと思えます。</p>
<p>事務局 (水上係長)</p>	<p>個別具体の取り組みにつきましては、随時交通会議に諮りながら、みなさまのご意見をいただいて進めていきたいと思えますので、よろしく願います。</p>
<p>日野副会長</p>	<p>先程の上位計画を見ていて、今までお話しいただいたように、まちづくりの観点とか、高齢化社会のまちづくりとなってくるので、そうすると高齢者を中心に移動する目的の創生を新たにやらないと、目的もなく移動しない、移動しなければ移動手段もいらないと。そんなまちで良いのかという話になるので、基本的に「元気なまち」というのは、人が移動するまちです。例えば、河内長野でリタイアされた方を含めて、どこか行く場所、目的があるのかということは、すごく大事なことです。そういうことを主としても、もう少し広域で考えても良いのかもしれないのですが、関係部局のほうで、次のマスタープランの中には、ぜひそういうものを入れて具体化していかないと、従来通りのキャッチフレーズだけのプランをつくってもなにも動かないと。そうすると、交通のほうも連動しない。交通だけで増やしましょうと言っても、ピンポイントでつくって動かすことにしかならないので、9ページの上位計画に基づいて、そういうまちづくりを実現するために、それを支援していくための交通サービスなので、次の計画の際にはそういったことを重点的に示していただきたいです。施策展開を具体的にできるようにしていただいて、そのために公共交通を使っていた</p>

	<p>くような仕組みにしないと、南海バスさんのお話にあったように、個々の日々のニーズというのは、個別の話になって将来的にどうなっていくのかという議論は難しいです。それはそれとして、将来に向かってどうするのかということについては担当部局のほうできちんとした計画をつくっていただいて、その施策を展開する中で、交通施設を整備していくとか、サービスを導入していくということを考えていただきたいと思います。</p>
向井会長	<p>ちょうど今総合計画の策定中なので、市民のみなさんに入っていて、交通会議でしている議論もうまく反映して、まちづくりに活かしていければと思います。</p> <p>奥村委員はなにかお気づきになることはないですか。</p>
奥村委員	<p>6ページのところの新規路線導入の検討で、平成26年度導入予定なしとなっているんですが、今回のくろまろの郷への乗り入れに合わせて、若干の路線の見直しも検討しておりますので、また改めて河内長野市さんにお伝えさせていただきます。</p>
向井会長	<p>坂本委員はいかがですか。現場でのご意見などありますか。</p>
坂本委員	<p>バスで高向方面に行く頻度ですが、利用率についてはやはり土日に片寄っている状況だと思います。11月29日からオープンすると同時に日野・滝畑コミュニティバスだけは下に降りるけれども、高向線は下まで行かないというのが現実でしょう。一般市民の方や観光客には便利が悪いというイメージがついてしまうと思うんですけど、今までの現状を見てると、頻度が少なすぎるという部分があると思います。それだったら、今後土日だけでも高向線を下まで降ろしてもらえないかと、市の方から南海バスへお願いする方法もあるのではないかと思います。</p>
向井会長	<p>ありがとうございます。もちろん費用の問題などはあったとしても、またそのあたりは担当部局と話していきたいですね。</p>
事務局 (水上係長)	<p>現在の日野・滝畑コミュニティバスを実際に乗り入れして、その状況を見ながら考えていきたいと思います。</p>
向井会長	<p>辻野委員は全般を通してなにかありますか。</p>
辻野委員	<p>今回は市の将来のまちづくりとリンクさせていこうということで、総合計画の中の課題で、特に人口が減り高齢者が増えていくに伴って、住宅開発</p>

	<p>団地で買い物や医療などでいろんな不便さがあると思います。ここで議論していただいている内容も、審議会が9月1日からスタートしまして、そこでも同じような課題を抽出いたしまして、議論をスタートしておりますので、そういった課題を解決するための施策のメニュー出しをされると思っていますので、そこを手段として、市民の足、また外から来てもらえる方の足として、一番重要なポイントとして議論しないといけないと思っております。</p>
向井会長	ありがとうございます。塩谷委員はいかがですか。
塩谷委員	<p>公共交通というのは、高齢社会になっていく中で非常に重要になるんですが、きめ細かな施策をすればするほど、一方で費用がかかるという問題があります。私は総務なので財政的な面から申し上げますと、例えば、くすまるなど、地元と協議をしているという話がありましたが、やはり地元の人たちに乗ってもらって支えてもらわないと、業者が一方的にするのでは維持が困難であると。そういう意味では、くすまるは非常に良い取り組みの仕方をしているなと思います。一方で、モックルコミュニティバスが、全経費に対して収入が3割ということで、いろんな工夫をこらしているんだけど、劇的に利用者が増えないという中で、もう少しいろんな工夫をしてみた上で、ある一定期間きちんと分析して、その路線、施策が良いのかどうか、みなさんで一度考えてみる時期が必要ではという気がしています。場合によっては大胆に発想を転換するということも含めて、市民の方にとって有効な施策を考えていければと思います。</p>
向井会長	ありがとうございます。榊井委員はいかがですか。
榊井委員	<p>都市づくり全般なのですが、駅前にもっと魅力をつくらないといけないのかなとすごく思いました。高齢化になって、元気なお年寄りが多いと思うんですが、一戸建ての家を建てるために一生懸命働いて、年金などけっこう持っておられるお金持ちのお年寄りが多いのかなと。今ですと朝は通勤でバスにたくさん乗って駅に行きますし、夜は家に帰ります。昼間の時間帯のバスはかなり空いているのかなというのがあるので、例えば、昼ご飯食べに河内長野駅に行こうよとか、三日市町駅に行けばこんな店あるやんとか、食べることだけではないですが、なにか付加価値をつけると、お年寄りが外に出ることで元気になって、公共交通を使ってもらって、駅前にお金を落としてもらおうと。そういう形で元気にしていけないのかなと思います。今、駅前のことを一生懸命考えて、既存の駅前を再度見直して、いろんな多面的な方法で考えなければいけないと感じました。</p>

向井会長	ありがとうございます。扇田委員はいかがですか。
扇田委員	くろまろの郷につきましては、今日いただいたご意見を踏まえて検討して、実現できるものは実現していきたいと思っています。それと同時に、ここだけでなく、観光の面、また地域の商業振興の面から、市民、また市外から来られた方の回遊性というか、あっちこっち周ってもらうような仕組みが必要かと思います。そういう観点から、公共交通も含めて駅前への移動など、魅力ある取り組みの中でやっていかないといけないと思います。
向井会長	ありがとうございます。徳田委員いかがですか。
徳田委員	私は健康部門を担当させてもらっていますが、やはり歩くというのがベースだと元々言われています。歩くためには、移動手段が確保されていることが必要ですので、公共交通の充実は健康についてもプラスになると思います。それと、先程おっしゃったように、高齢者の活躍がまちの活力につながるような仕組みが重要だと思いますが、そのベースにあるのは、高齢者は支えられる側という従来の認識から、支える側でもあるということをお伝えしていきたいと思っています。前回参加させていただけなかったのですが、18ページの方針のところ、交通弱者支援ではなく高齢者支援という括りにしている理由はなにかあるのでしょうか。前提として、高齢者イコール弱者という先入観があるのであれば、これから進みたい方向と少し相反するところがあるのかなと思います。
事務局 (水上係長)	基本的には、目標としております将来のまちづくりを支えるための公共交通サービスの提供の中の方針としまして、高齢者支援という内容にかかってくるのが3つと捉えさせていただいています。徳田委員がおっしゃるように、ノンステップバス導入の推進については高齢者支援だけではございませんし、フリー乗降の展開というのももちろん高齢者だけではないのですが、どこからでも乗り降りができるという取り組みで言うと、あえての視点としては高齢者支援になるのかなと。同伴者割引拡大の検討につきましては、現在日曜日に、高齢者だけでなく全利用者を対象に割引を実施していますが、これを平日も展開するにあたっては、高齢者の方を対象に拡大していくことをこの計画で考えております。他にも高齢者支援になることはいろいろあるのですが、高齢者支援という観点では、あえてこの3つの取り組みかなということで書かせていただいております。
日野副会長	弱者という意味ではないですね。ちょっとしんどいから移動するのやめて

	<p>おこうという高齢者の方がいるんじゃないかと思うので、そういった方々を支援することで移動してもらえらると思います。例えば、フリー乗降では、バス停まで歩くのがしんどいから買い物行ってきてよという人に乗ってもらえるようにすることも一つです。同伴者割引は、通院などで、一人でも行けるんでしょけど、一人で行くよりは誰かと一緒に行ったほうが良いよねと。障がい者用の手帳を持っている方も、例えば高速道路も半額になるんですけど、そもそも出たがらないので、出たがらない高齢者を連れていこうと思うと、一緒に行けば半額になるから来てもらうというような流れです。さらに理想として考えたいのが、そのときにもう一つの目的をプラスしてほしいと。例えば、病院や買い物に行って、一緒に待ち合わせでお茶を飲みに行くというように、目的を一つプラスさせたい対象として高齢者が良いんじゃないかと。そういう意味で、高齢者の方々を支援することで、高齢者自身が控えていた移動をするということもありますし、他の人と一緒に移動して新たな目的を追加していただいて、まちに少しでも滞在してもらうことが可能になることも含めて高齢者支援ということで議論したと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>ありがとうございます。堀委員はいかがですか。</p>
<p>堀委員</p>	<p>施策に関して市民が協力しないと成り立たないというお話がありますが、本当に私もそう思っていて、交通だけでなく、地域のまちづくり活動もしているんですが、費用が少し高くても地元の企業さんや商店さんを利用してみんなで応援しよう。地元の企業もできれば地域の人に還元するというお互いの協力関係がなければいけないと思います。そのあたりの市民の意識を変えるのはなかなか難しいですが、河内長野市は河内長野市民がみんな協力して、みんな支えていこうということで、交通もそうですし、普段の生活においてもそういう考え方を地域をあげて取り組んでいってもらえたらと思います。私たちが地域で声をあげていけたらなと思います。それと、交通に関しては周回バスのお話がありますが、乗り継ぎの問題があって、やはりマイカーはすごく便利なんですよね。私は千代田台なのですが、くろまろの郷へバスで行こうと思うと、河内長野駅まで出て、乗り換えて行かないといけないのが億劫なんですよね。前回もお話しさせてもらいましたマイカーとの連携について、駐車場が有料であっても安ければ良いと思うんです。今から大きなスペースをとるのも難しいとは思いますが、市の駐車場とバスなどの公共交通機関との連携がうまくいけば、エコにもつながりますよね。駅前もなんとかしないといけないと思ってまして、駅前に駐車場がないですよね。ノバティの駐車場ぐらいで、商店街の駐車場も運営されなくなって不便になってきています。自分が仕事して</p>

	<p>いるときも、外から来られる方についても全て駅が中心になると思うんですけど、わざわざ駅を経由する理由があまりなくて、市役所が駅の横にでもあれば、交通の乗り換えのターミナルとしてすごく有効かと思いますが、やはり駐車場の問題かなと思います。くろまろの郷のような集客できる大きい施設をうまく乗り換えのポイントにできたら良いと思います。</p>
向井会長	<p>それが我々の課題でもあります。井戸委員はいかがですか。</p>
井戸委員	<p>9ページの総合計画の理念というところの見直しはされているのかというのが一点です。また、ここ数年、たまにポスティングをやると団地などでポストが塞がれているところが多くて愕然とします。住んでいる人が少ないんです。そこからいくと、書かれているような「〇〇のまちづくり」というのを見直さないといけないのではないかという気がします。理念などいろいろ踏襲していったときに、目的や目標とかの話が出ていますが、個々の価値観は違うと思いますが、このまちに住んでいていたいなにかが得られるのかが明確ではないように思います。仕事柄、外のまちへ行くことが多いですが、圧倒的な違いは道路行政です。和泉から堺・高石の方面へ行くにも新しい道が通っていたり、昔は山があって迂回して狭い道を通らなければならないところにトンネルができていたようなことが、発展しているまちにはよく見受けられるということであれば、マイカーであろうが、公共交通機関であろうが、見直しが図られていくことでより利便性が高まっていくと思いますが、それはあくまで手段だと思うんです。その結果、なにが得られるんですかということがはっきり打ち出されていないような気がします。これは、立場上違うからやむを得ないかもしれませんが、それから、くろまろの郷は発展してくれるに越したことはないんですが、先程JAさんの売り上げ目標が年間6億とのことでしたが、仮に週1回の休みで年間300日くらいで、1日200万円で、土日と平日の差が出てきますね。あくまで直売所だけのことですが、もう一方の施設ではどれくらい想定されてるのかということになります。渋滞対策についても、具体性があまり見えてこないということです。結局は、まちになんらかの利益をあげるためにやっているんですけど、その利益とはなにかという部分があまり見えてこない気がします。</p>
日野副会長	<p>公共交通の計画の中でそれを求めるかどうかという話で、まちづくりの総合計画や都市マスの中で、どんなまち、どんな生活を目指すのかということがあって、そのための計画なので、先程の正しい数値目標の話が出ましたけど、逆に言うとそれだけでは難しいのが、どこでもバスの利用者数が急に増えるわけではなく、むしろだんだん減っている状況の中で、目標を</p>

	大きく掲げたところで達成できないと。それで、目標設定ができていないと言われますが、実はそうではなくて、違うところの観点でプラスになってる部分があると。それは、乗降客数とかではなく、まちづくりの部分の中のなにかが達成できているということだと思います。
井戸委員	一番は、達成率が低くても未来に成功する要素があるというのを見逃してしまって、切り捨てられるとなくなってしまうことになり得るということです。
向井会長	今ちょうどいろんな意味でのまちづくりについて議論してますので、貴重なご意見ありがとうございます。 阪上委員はいかがですか。
阪上委員	日野・滝畑コミュニティバスの件ですが、路線を伸ばすということで、料金はまだ決まってないのですか。
事務局 (水上係長)	料金と時刻については南海バスさんと詳細を詰めているところです。
阪上委員	駐車場ですが、駐車対策はどう考えてますか。
向井会長	いろんなシミュレーションの想定の中で、外環沿いなり、沿線である程度交通渋滞をさばくようなことも検討してますし、駐車場も今まで停めていなかったところに停めてもらうこともありますよね。
扇田委員	緑地のところも数十台止められるのではないかと。最悪は、混んだときにはイベント広場にも何台か止められると思うので、そういった形で駐車台数を増やしたいと思います。
向井会長	平日の混み具合と、土日の様子などを見ながらということですね。あすかてくるでの1号店も、開店の30分前から道路沿いで渋滞していると聞いてます。交通対策も大事かと思います。 曾和委員はいかがですか。
曾和委員	駐車については、地域の道に駐車される方が多いでしょう。土日に一番多いと思いますし、バスより車で行かれる方が多いと思います。それと、関西国際空港へ行くリムジンバスは途中で止まらないと思いますが、あれをくろまろの郷へ利用することはできないですかね。

奥村委員	行きは乗っていただくだけなので、途中で降りることはできませんね。
向井会長	ありがとうございます。椋本委員はいかがでしょうか。
椋本委員	高齢社会とおっしゃいましたが、サニータウンや千代田台、南花台など、今まで団塊世代の方がそこで働いていて、その子供さんたちが一旦外に働きに出て、そこからまた帰ってくるという方が少なくなってるように思うんです。個人的な意見ですが、公共交通機関ということよりも、若い方が出て行ったあと、残ってらっしゃるお年寄りをどのように外に連れ出すかということのほうが大事だと思います。
向井会長	ありがとうございます。池谷委員はいかがですか。
池谷委員	お年寄りが公共交通機関を使って出かけるような目的地があれば、川幡委員がおっしゃるように、免許証を返納しても行くと思います。市が活性化していくためにできることをやっていきたいと思います。
向井会長	ありがとうございます。委員のみなさまからいろんなご意見をいただいた中で、形成計画については再度精査していき、パブリックコメントにかけさせていただきたいと思います。それでは、キャッチフレーズについて、お手元の資料の中で委員のみなさまいかがでしょうか。
日野副会長	これは今日決めないといけないのでしょうか。指定の3つに絞るかどうかもまだ決まっていないですね。どうせならこの中から選んでいただいて、後日事務局に連絡してもらって、投票の多いものに決めますということにすれば良いんじゃないかなと思います。
向井会長	みなさまどうでしょうか。今ここで決めてしまうか、後日みなさまから投票いただいて決めるか、どちらがよろしいでしょうか。賛否をとりますので、今ここで決めようという方は挙手をお願いします。では、後日事務局から照会をかけて選んでいただくほうが良いという方は挙手をお願いします。(多数) それでは、後日事務局から照会をかけて、この中から選んでいただいて、回答いただいた中で最も多いものに決めさせていただくということで、よろしく願いいたします。 それでは最後に、前回の会議で少しお話ししましたが、日野副会長と事務局の水上が、8月に東京の日本大学で開催されました交通工学研究発表会で、河内長野市の公共交通に関する取り組みの事例を発表してまいりましたので、その発表内容について事務局より委員のみなさまにご紹介したい

<p>事務局 (水上係長)</p>	<p>と思います。</p> <p>(事務局より、交通工学研究発表会について、資料4の説明)</p>
<p>日野副会長</p>	<p>河内長野市のみなさんで検討いただいたことで、やっておられることをできるだけ広く周知して、これについてのご意見もいただきながら改善していけば良いのではないかとということで発表していただきました。私の関わっているところは、いろんな問題について取り組んでいることをもっと公表しましょうとお願いしていますが、なかなか難しいです。ちなみに、発表できるかどうかについては、事前に審査があって、通らなければ発表できないことになっています。今回、衛星都市で発表されていたところは3市しかなくて、もともとは交通工学なので、いわゆる交通安全とか交通渋滞に関するものが多いのですが、最近は公共交通に関する内容がだんだん増えてきました。今日議論いただいているように、将来のまちづくりをどのように考えるのかというときに、端的に言えば、人口が減って高齢者割合が増えていくことで移動できなくなるので、できるだけみんなが外出できるようにして、賑やかなまちにするための支えとして、河内長野市はいろんなチャレンジをしているということをご理解いただけたと思います。</p>
<p>向井会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、最後に事務局からなにかありますか。</p>
<p>事務局 (中橋課長)</p>	<p>本日は活発なご議論をいただきましてありがとうございます。今後のスケジュールについてでございますが、本日も審議いただきました第3期計画案につきましては、11月にパブリックコメントを実施させていただきます。そして、パブリックコメントの実施結果を踏まえて、計画の最終案を事務局で作成し、もう一度委員のみなさまにご審議いただきたいと考えております。その時期につきましては、来年の1月に予定しております。また改めてご案内を送付いたしますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>向井会長</p>	<p>それでは、本日は長時間に渡りまして熱心にご議論いただき本当にありがとうございます。ちょうど総合計画の策定中でございます。この交通会議で議論しているような、いろんな観点からのご意見についても、総合計画に活かして、このまちを盛り上げていくような計画にしたいと思っておりますので、今後ともみなさまのご指導やご意見を賜りますようお願いいたします。これをもちまして、本日の会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>

河内長野市地域公共交通会議委員名簿

平成26年10月2日（木） 午後3時から 河内長野市役所 802会議室

	氏名	所属・役職	代理出席
会長	向井 一雄	河内長野市 副市長	
副会長	日野 泰雄	大阪市立大学大学院工学研究科 教授	
委員	伊勢 昇	和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 准教授	
委員	長谷 潤	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局総務企画部門首席運輸企画専門官	野村
委員	湯川 義彦	国土交通省近畿運輸局大阪運輸支局輸送部門首席運輸企画専門官	欠席
委員	浅井 敏彦	大阪府 都市整備部 交通道路室 都市交通課 公共交通計画グループ 課長補佐	平瓦
委員	松倉 昌明	大阪府富田林土木事務所 地域防災監兼地域支援・企画課長	
委員	川幡 一哉	大阪府河内長野警察署交通課長	
委員	植田 光昭	南海バス株式会社企画部企画課長	
委員	奥村 夏男	南海バス株式会社営業部営業課長	
委員	坂本 頼幸	南海バス株式会社 労働組合代表	
委員	池谷 育晃	大阪第一交通(株) 河内長野営業所長	
委員	椋本 専次	近鉄タクシー(株) 南大阪総合営業所長	
委員	曾和 孝司	河内長野市老人クラブ連合会会長	
委員	阪上 明	河内長野市観光協会相談役	
監事	井戸 清明	河内長野市商工会理事	
監事	濱本 友美	市民代表	欠席
委員	堀 泰明	市民代表	
委員	徳田 博久	河内長野市健康長寿部長	
委員	扇田 宗彦	河内長野市産業経済部長	
委員	榊井 繁春	河内長野市都市づくり部長	
委員	塩谷 聡	河内長野市総務部長	
委員	辻野 修司	河内長野市総合政策部長	